日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだい ニュース

第１９号
（２０００年１２月２０日）

発行所：〒565-0871　吹田市山田丘１－２
大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室
日本グループ・ダイナミックス学会
電話＆Fax: ０６－６８７９－８０６６
発行人：堀毛一也　　編集担当：廣岡秀一

★★　新会長あいさつ　★★

会長　　堀毛　一也

このたびの選挙により会長を務めさせていただくことになりました。まさに晴天の霹靂で、大変とまどっております。ここ２年ほど本学会のニュースレターの編集を担当いたしておりましたので、名前くらいはご存じの方もおられるかと思いますが、大半の先生方には、これまで直接ご挨拶申し上げる機会もなかったことと存じます。全くもって役柄に不釣り合いな人間ではございますが、何卒よろしく御指導・御鞭撻下さいますよう、あらためてお願い申し上げます。

簡単ですが、この２年間の運営方針につきまして、私見を述べさせていただきます。基本的には、前会長の大坊先生の方針を堅持してゆくつもりです。懸念された財政も黒字に転向できる見通しができてまいりました。会費の値上げで心配された会員の減少も、ほぼ横這いで推移いたしております。このように堅調な運営が行われましたことは、大坊先生や事務局を担当された鹿内先生はじめ前理事の先生方のご努力の賜物とあらためて深く感謝申し上げる次第です。

一方で、類似の関心をもつ研究者の集まりである社会心理学会が、ここ数年で大きな発展を遂げているのも事実だと思います。それに比べると本学会の活動が、やや沈滞気味であることも否定できません。私に与えられた役割は、従来の方針を踏襲しつつ、学会に新たな息吹を吹き込んで活性化を図ることが第一ではないかと考えております。

そのために、常任理事の中に将来計画をご担当いただく役割を設け、本学会が今後どのような方向を目指してゆくか、真摯な論議を重ねてゆきたいと思います。そうした方向性の一つには、懸案となっている実践会員制度の問題も含まれます。日本の研究をリードする国際的なスペシャリストや、それを目指すお若い研究者の方々に、発表や活動の場を提供するという従来の役割とともに、実践的な応用研究をベースにより広範な視点から様々な啓蒙活動を行いうるジェネラリストやそれを目指す方々に、おおいにご活躍いただける場を提供することも、本学会の重要な役割のひとつではないかと考えます。そのための手だてのひとつとして、この制度の導入を積極的に進めたいと考えておりますが、心理学会連合で論議されております資格問題等との関連等も検討する必要がありますので、導入にあたっては、そうした動向もふまえながら、慎重に論議をすすめてゆきたいと思います。

当面する一番の難題はＡＪＳＰの件だと思います。ご承知のとおり、現在の出版社との契約は2002年までの５年間ということになっておりますので、来年の秋ごろまでに、新たな契約をどのような形で進めるか決定しなければなりません。これは、現行の会費制度とも関連する問題で、私にとってはきわめて荷の重い決断を強いられることになりますが、この１年の間に集中的に論議を重ね、結論を出したいと思います。そのさい、一部の意見のみが反映される形での判断はできるだけ避けたいと考えておりますので、論議の進捗状況を見ながらになりますが、アンケート等により直接、会員の皆様方のご意見を伺うことも必要かと考えております。そのような事態になりました折には、是非ともご協力賜りますよう、あらかじめお願い申し上げる次第です。同時に、ＨＰの充実等によりご意見を直接反映できる手だても広げてゆきたいと思いますので、本学会の将来について、それぞれお考えいただいておりますことを承け賜えれば幸いに存じます。

いろいろな点で、本学会は大きな転換点を迎えており、この２年で将来へのヴィジョンを明確なものにしてゆかざる得ないと考えます。責任者たる私が甚だたよりなく、ご不審も大きいことかと存じますが、幸い経験も豊かで研究者としても高い評価をお持ちの先生方を役員としてお迎えすることができましたので、ご指導を仰ぎながら的確な判断が下せるよう努力してゆきたいと存じます。どうか、皆様のさまざまなご決断につきましては、あと２年のご猶予を賜ればと存じます。皆様に納得のいただける方向性を打ち出すべく全力を傾ける所存でおります。あらためてよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

★★　*前会長あいさつ*　★★

前会長　　大坊 郁夫

「研究」活動の前提としての運営を－感謝を込めて－

本学会は、国内外において多大な貢献をしてきた長い歴史を有しています。２年前、この学会運営にかかる大任を務めさせていただくに際して、厳しい緊張を抱いたものです。とりわけ、国際的な活動の推進、グループ・ダイナミックスの実践性を旨とする新たな活動にかかわる課題が眼の前に与えられたからでもあります。いくら電子通信手段の普及があると言っても、綿密な相談が易々とは日々できるわけではないことのもどかしさ、そして常任理事会での白熱した議論、学会の少なくない日常業務などからしますと、決してこの２年間は短いものではありませんでした。仕事の多い事務局を担当していただきました鹿内啓子常任理事には感謝を表すのに十分な言葉もありません。

会長職に就くにあたり、組織としての継続性、本学会の趣旨を鑑み、併せて内外の情勢の変化に見あう学会運営を目指すことを基本としました。本学会の発足の実践・応用を目指す精神､そして今から６年前になされた三隅二不二先生から杉万俊夫会長体制への移行、理事選出の複層的システムへの変更、学会事務の委託、国際的活動の進展等様々な課題を引き継ぎました。三隅二不二先生のご貢献による「三隅賞」の性格づけ、および賞の授与をスタートできたことは特筆すべきことでありました。また、1)国際活動の中心をなすAASPとの関係、AJSPの共同刊行に伴う財政的負担の問題、2)集団指導士資格の問題はこの２年間にとって大きな課題でした（多くの方々の討議を経て、この時期における資格導入を図らないこととしました。）ただし、この問題に深く関わる新たな提案が日心連からなされています。さらに、2)の問題を一つの発端とする「実践会員」制度についても検討し、一つの方向性を見いだしてきました。

財政面については、賛助会員の開拓、支出の節約等により、単年度での黒字に至ることができ、今後のある程度の見通しもつきつつあります。併せて、学生（DC院生）会費の軽減を図ることができました。ただし、財政的に厳しい状況にあることに変わりはありません。運営上の経費削減の努力、会員の会費納入率の向上はさらに必要です。

広報活動も今後一層の充実を要する問題です。学会ＨＰの内容の充実、タイミングのよい広報を試みました（ぐるだいニュースの発行増等、学会案内・新入会申込書作成等）。

未だ検討を要する大きな問題があります。これまでにどれほどの工夫が出来たのか、不確かです。国際的な活動に関して、アジア社会心理学会(AASP)の発足に向けての香港で、あるいは、昨年台北で、AASPとJGDAとの関係、雑誌発行についての懸案事項についての難問解きの話し合いにおけるそれぞれの真摯で真剣な眼差しを忘れるわけにはいきません。課題先送りになりましたが、新会長、理事の方々にこれを引継ぎ、適切な検討をお願いいたします。

なお、継続懸案事項としては、 1)財政の安定化　2)ＡＡＳＰとの関係、AJSP共同発行維持と財政安定　3)地区活動の再検討　4) 学会活動における理事の役割　5)広報活動の活性化（HPの活用等）　6)会員情報、学会活動、論文等のデータベース　7)実践会員制度　8)日心連との関係及び連合資格制度などがあります。

会員各位のご協力、そして、とりわけ常任理事の、橋口捷久先生、鹿内啓子先生、山岸俊男先生、外山みどり先生、そして今後もその任に当たられる村田光二先生、そして堀毛一也先生に心から感謝申し上げます。

われわれが、学会で研究活動できますのも、日々の運営に当たる役員等の「アカデミック・ボランティア」に負って成り立っています。会員それぞれの一層の積極的なコミットメントを新役員にお寄せいただけますようお願いいたします。

★★　第４８回大会が東洋大学で開催されました　★★

日本グループ・ダイナミックス学会第４８回大会が、９月３０日、１０月１日の両日、東洋大学白山校舎を会場として開催されました。２４５名の大会参加者を得、シンポジウム【*社会の中の「迷惑」を考える*】をはじめ、４つのワークショップ、７９の発表のもとに活発な議論が展開され、盛会の内に終了いたしました。大会委員長の中里至正先生をはじめ、大会開催にご尽力いただきました大会準備委員会の諸先生方には、あらためて厚く御礼申し上げます。

大会の印象記を、熊本大学の吉田道雄先生、昭和女子大学大学院生活機構研究科の日向野智子さんにお願いいたしました。とてもおもしろい印象記となっています。ご協力ありがとうございました。

★★　第４８回大会印象記　その１　★★

熊本大学　　吉田　道雄

東洋大学観謝記

20世紀にスタートしたグルダイの世紀最後を飾る学会に参加した。東洋大学に出かけたのは，初めてのことだった。文字通り文京の地のど真ん中，スマートな高層ビルを見ると，いかにも東京の大学という印象を受けた。まずは，有意義な2日間を演出された中里先生はじめスタッフのみなさまにお礼を申し上げたい。いつものことながら，学生諸君の若さあふれる対応もあって，快適な時間が過ごせた。その中の数人に話かけてみた。まずは「学会の仕事は楽しい」との回答。それに加えて，「でも，受付や休憩室にいると，先生方の研究発表に参加できません。興味津々のシンポジウムも聞けないんです。それだけが残念です…」。じつに感動を呼ぶ模範解答（？）だった。発表論文集はご褒美にいただけるのではないだろうか。それをテキストに，これからGDの勉強を大いにすすめていただきたいと思う。こうした若者たちと出会うたびに将来が楽しみになってくる。次世紀のわが国も大丈夫でしょう。

それにしても若い人が多いと感じたのは，こちらが年をとったせいだろうか。わたしは，けっこう‘早熟’で，大学1年生の秋にはGDのメンバーにしてもらった。正確な年数は言いたくないが，すでに30年以上の時間が流れている。その時からつい最近まで，どちらを見ても‘お偉い先生や超先輩’ばかりと感じていた。それがいつの間にか若い人の方が多くなった。自分が半世紀を越えて生きているのだから，それは当然のことなのだとようやく気がついた。ともあれ，若い研究者の発表は元気で気持ちがいい。しかし，同時に‘経験豊かなご年輩’も積極的に発表に加わっていただきたいと思う。もちろん，この中にはわたしも含めているつもりだ。高齢社会を迎えたこの時代，団塊の世代以上のみなさん，まだまだ新しい研究はできますよね。若い者の後ろに名前つけるだけで満足してはいけません。

もう一つ印象に残ったのは，発表時間がきちんと守られたこと。これは自分が参加したり覗いた会場に限られるが，なかなかうまく進行していた。ひところは「合図のベルは誰がために鳴る？」といった感じの発表も少なくなかった。時間がルーズになると，せっかくの内容も聞く意欲を失ってしまう。イライラし始めるのだ。こんな気分になるのは，わたしだけではないはずだ。

時間がうまくいったのはシンポジウムの効果かもしれない。なにせ，取り上げられたテーマが「迷惑」だった。口頭発表の前日という絶妙のタイミングだ。シンポジウムを聞きながら，「明日の発表は‘迷惑’かけちゃいかんぞ」と心に誓った。おかげで，私たちが座長を担当した会場でも，時間はきわめてスムーズに進んでいった。わたしも，「2鈴が鳴ったら，10秒でやめるぞ」と決意して発表に望んだ。おかげで時間はうまくいったが，内容の方は保証の限りでない。その点はご勘弁いただくとしよう。ともあれ，これからもGD学会から‘迷惑’がられないように，きちんと仕事をしていきたい。

そんな新しい気持ちを持つことのできた楽しい学会だった。再度，東洋大学のみなさまに感謝…。

★★　第４８回大会印象記　その２　★★

昭和女子大学大学院生活機構研究科
日向野　智子

第48回グループ・ダイナミックス大会印象記（東京）

第48回グループ・ダイナミックス大会は、東洋大学社会学部の主催により九月三十日、十月一日の両日にわたり開催された。今夏の暑さは格別であったが、９月も末になると随分と涼しくなっており、快適な大会を迎えることができた。

大会では、例年通りシンポジウム、ワークショップの企画発表と、個人の研究発表とが催された。シンポジウムは「社会の中の迷惑行動を考える」というテーマのもとに、社会的迷惑の概念、組織におけるセクシュアル・ハラスメント、インターネットにおける迷惑について話題が提供された。特にインターネットにおける迷惑については、インターネットに対する姿勢や自分自身の行為を省みる良い機会を与えて頂いた。またワークショップでは４つのテーマが掲げられ、「関係性の心理学」「住民運動と行政法の社会心理学」「彷徨するワーキングウーマン」「エイズ問題の学際的研究」のそれぞれについて興味深い議論がなされた。シンポジウム、ワークショップで取り上げられたテーマは、連日ニュースで報道されることも多く、私たちが身をもって経験し得る事象でもある。社会的な問題や関心事と私たちの研究とは常に呼応するものであり、それらの問題に対して即時の対応が求められていることを再確認した。個人研究については、昨年度よりも発表件数が増え、会場も賑やかだったようである。発表の領域も多岐にわたり、広い興味関心に基づいた諸先輩方の研究を拝聴させていただきたいへん勉強になった。

懇親会では、シドニーオリンピックでの女性の躍進にちなんで「研究者社会における女性の活躍を期待する」というお言葉を中村先生より頂戴した。オリンピックでの女性のメダル獲得数が日本全体の成績を高めたように、本学会においても私たち女性が活躍することによって学会全体の質を向上させることができたならばどんなに素晴らしいであろう。しかし、シンポジウム、ワークショップの内容を振り返ると、女性が社会で自由に活躍するにはまだまだ多くの課題が残されているように思う。学会のレベルアップ、ならびに男女共生社会の実現に向けて、私たち女性陣の奮闘が期待されているのだと背筋の伸びる思いであった。また個人的な感想を述べさせていただくと、初めてショートスピーチに臨んだために、今大会はとても緊張してしまった。次の大会では、諸先輩方のように落ち着いて新たな知見を発表できるように、日々研究に勤しんでゆきたいと思う。

第49回大会は熊本大学において開催予定である。今大会同様、盛大な大会となることを祈念したいと思います。最後に、大会を十二分に盛り上げて下さった東洋大学ならびに関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

★★　常任理事会・理事会報告　★★

常任理事会・常任編集委員会・新現合同理事会・編集委員会議事録

日　時：2000年9月29日　常任理事会15：30～16：30
合同理事会16：30～18：00

場　所：東洋大学 甫水会館 会議室

出席者：常任理事　大坊郁夫、橋口捷久、山岸俊男、堀毛一也、鹿内啓子
現理事　結城雅樹、吉田俊和、永田素彦、深田博己、吉田道雄、小口孝司、沼崎誠、古畑和孝、八ツ塚一郎
新理事　松井豊、斎藤和志、渥美公秀、浦光博、南博文、中村完、大橋英寿、廣岡秀一、福島治

【報告事項】

＊総務関係

１．2000年度役員選挙結果報告

会長、常任理事、理事、監査が選出されたことが報告された。

２．三隅賞の選考報告

前回と同じく日本グループ・ダイナミックス学会から3名（大坊会長、山岸常任理事、山口勧特別編集委員）、AASPから2名、合計5名で選考委員会が構成された。

選考委員による投票の結果、4編が候補論文として挙げられ、協議の結果、AJSP Vol..3　掲載の高野陽太郎・櫻坂英子論文が受賞した。

３.「優秀論文賞」の選考報告（選考委員会　古畑 和孝委員長）

昨年度の常任理事会での検討により、今回から若手部門と一般部門の区分をせず、原則として1本を選考することとなった。選考委員（理事全員）による事前投票の結果に基づいて、選考委員会で協議した結果、次の2論文に決定した。

竹澤正哲氏「社会的ジレンマの解決において不公正感が果たす役割」

高田利武氏「日常事態における社会的比較と文化的自己観横断資料による発達的検討-」

＊渉外・広報

４．AASP関係

1)第4回大会はオーストラリアのメルボルン大学で開催される。
会期は2001年7月10-13日である。

2)AASPからの諸案内が日本グループ・ダイナミックス学会会員に直接送付されることになった。

５．広報関係

会報No.16、17、18を発行したこと、ホームページを次第に充実させている旨が報告された。

学会案内が作成され、入会申込書が簡素化された。

＊会計関係

６．会費請求

退会届けが提出された時点で既にその年度の機関誌が1冊でも送付済みの場合は、その年度の会費の請求をし、その年度限りでの退会とすることにした。

７．その他

1)会員異動：2000年8月31日現在の会員数は、一般会員784, 学生会員32, 賛助会員2, 名誉会員14である。

2)日本心理学諸学会連合（日心連）からの提案

日本心理学諸学会連合統一資格、および心理学関連学会のあり方について、各学会の意見が求められた。本学会としては、統一資格の具体化については更に検討を続けて行くべき事、また、学会のあり方については現時点では賛否を問う段階ではなく、さらに議論を尽くすべきであることを回答したと報告された。

3）諸規定の整備

現在文書化されていない諸規定（優秀論文賞、名誉会員推戴、その他）を整理し、会員名簿に掲載することが報告された。

【審議事項】

1．1999年度決算案・監査報告

篠原しのぶ、内藤哲雄監査から監査を受けた結果、会計については適正に処理されていると判断された旨の報告がなされ、別紙のような決算案は承認された。

内藤哲雄監査から会務・会計について検討すべき事項が指摘されたことが報告された。

2．2000度事業計画案

以下のような計画案が承認された。

・機関誌の発行

従来通り年2冊を発行する予定である。

・第49回大会

熊本大学（準備委員長　佐藤　静一先生）で10月下旬に開催される予定である。

・広報

会報は年4回発行予定である。ホームページを更に充実した内容のものにしていく予定である。

・AASP大会との連携

AASP第4回大会で本学会による企画を計画中である。

・地区活動・他学会との連携等

地区別理事を中心として、地区活動を活発化させていきたい。さらに、地区活動のあり方についての検討を要する。

3．会則改正案

会則第2条および第9条について下記のような改正案を総会に提案することが承認された。

第2条（事務所）この事務所は、当分の間大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室（〒565-0871　吹田市山田丘１－２）におく。

第9条（役員の任期）役員の任期は役員改選年度の大会終了の翌日より次期改選年度の大会終了時までの概ね２年とする。ただし、理事は会長在任期間を含む場合は引き続き３期、それ以外の場合は引き続き２期を越えてその任に留まることはできない。また、監査は引き続き２期を超えてその任に留まることはできない。

附則

この改正会則は2000年10月2日から発効する。

検討課題であった大学院生（特に博士課程）の会員について1999年度の決算に照らして検討した結果、会則細則第24条を次のように改正することが承認された。この改訂会費は2001年度から適用される。

第24条　正会員の会費は当分の間、年間12,000円とする。但し、大学院（修士・博士課程）在学中で定職を持たない会員の会費は、年間8,000円とする。入会金は当分の間1,000円とする。名誉会員からは会費を徴収しない。賛助会員の会費は年間一口20,000円とする。

会則細則第19条、第22条、第26条および第27条の改正が確認された。

4．2001年度暫定予算案

別紙のような暫定予算案が提示された。予算案の審議は2001年の総会で行われる。

5．集団指導士資格問題

多くの困難な問題が伴い会員の合意も難しいことから、現時点では導入しないことが承認された。

6．実践会員制度

昨年度八ツ塚一郎理事、永田素彦理事から提案され、地区別懇談会でも同様の意見が出されたので、導入については合意し、その細部を新役員のもとで更に検討を進めることが承認された。

【編集委員会】

1．実験社会心理学研究の刊行状況

第40巻1号まで予定通りに刊行されている。

現在の投稿・編集状況は、審査中24本、受理3本、reject　4本、取り下げ2本である。現時点で、第40巻2号に掲載予定の論文は原著論文1本、資料論文1本、展望論文1本である。また高木英至氏による山岸俊男著「安心社会から信頼社会へ」の書評も掲載予

定である。
２．AJSPの刊行状況
vol.3-2まで予定通り刊行されている。
Progress inAsianSocialPsychologyVol.3.を編集中である。

★★　２０００年度総会報告　★★

日　時　：　2000年9月30日　　12：30〜13：30
場　所　：　東 洋 大 学　社 会 学 部
出席者　：　123名

第48回大会中里至正大会委員長からご挨拶があった。

【報告事項】

＊総務関係
１．細則改正の報告
会則細則第19条の改正（2000年5月1日発効）、第22条、第24条、第26条および第27条の改正（これらは2000年10月2日発効）が理事会で承認されたことが報告された。
２．2000年度役員選挙結果報告
会長、常任理事、理事、監査が選出されたことが報告された。
＊編集関係
１．実験社会心理学研究の刊行状況
第40巻1号まで予定通りに刊行されている。
現在の投稿・編集状況は、審査中24本、受理3本、reject 4本、取り下げ2本である。
２．AJSPの刊行状況
vol.3-2まで予定通り刊行されている。
Progress in AsianSocialPsychology Vol.3.を編集中である。
３．三隅賞の選考報告
前回と同じく日本グループ・ダイナミックス学会から3名（大坊会長、山岸常任理事、山口勧特別編集委員）、AASPから2名、合計5名で選考委員会が構成された。
選考委員による投票の結果、4編が候補論文として挙げられ、協議の結果、AJSP　Vol..3掲載の高野陽太郎・櫻坂英子論文が受賞した。
４．「優秀論文賞」の選考報告（選考委員会　古畑 和孝委員長）
昨年度の常任理事会での検討により、今回から若手部門と一般部門の区分をせず、原則として1本を選考することとなった。選考委員（理事全員）による事前投票の結果に基づいて、選考委員会で協議した結果、次の2論文に決定した。
竹澤正哲氏「社会的ジレンマの解決において不公正感が果たす役割」
高田利武氏「日常事態における社会的比較と文化的自己観横断資料による発達的検討-」

＊渉外・広報
５．1999年度第47回大会（於：大阪国際大学）決算報告
石井滋大会委員長から報告された。
６．AASP関係
1)第4回大会はオーストラリアのメルボルン大学で開催される。
会期は2001年7月10-13日である。
2)AASPからの諸案内が日本グループ・ダイナミックス学会会員に直接送付されることになった。
なお、AASPから韓国のKim,U.氏が来日され、本総会において、AASPの最近の動向を報告し、AASP活動への積極的な参加を要請した。

７．広報関係
会報No.16、17、18を発行したこと、ホームページを次第に充実させている旨が報告された。
８．その他
1)会員異動：2000年8月31日現在の会員数は、一般会員784, 学生会員32, 賛助会員2, 名誉会員14である。
2)日本心理学諸学会連合（日心連）からの提案
日本心理学諸学会連合統一資格、および心理学関連学会のあり方について、各学会の意見が求められた。本学会としては、統一資格の具体化については更に検討を続けて行くべき事、また、学会のあり方については現時点では賛否を問う段階ではなく、さらに議論を尽くすべきであることを回答したと報告された。
3）諸規定の整備
現在文書化されていない諸規定（優秀論文賞、名誉会員推戴、その他）を整理し、会員名簿に掲載することが報告された。

【審議事項】

１．1999年度決算案・監査報告
篠原しのぶ、内藤哲雄監査から、会計については適正に処理されている旨の報告がなされ、決算案は承認された。
２．2001年度暫定予算案
暫定予算案が提示された。予算案の審議は2001年の総会で行われる。
３．2000度事業計画案
以下のような計画案が承認された。
・機関誌の発行
従来通り年2冊を発行する予定である。
・第49回大会
熊本大学（準備委員長　佐藤　静一先生）で10月下旬に開催される予定である。
・広報
会報は年4回発行予定である。ホームページを更に充実した内容のものにしていく予定である。
・AASP大会との連携
AASP第4回大会で本学会による企画を計画中である。
・地区活動・他学会との連携等
地区別理事を中心として、地区活動を活発化させていきたい。さらに、地区活動のあり方についての検討を要する。
４．会則改正案
会則第2条および第9条について下記のように改正することが承認された。
第2条（事務所）この事務所は、当分の間大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室（〒565-0871　吹田市山田丘１－２）におく。
第9条（役員の任期）役員の任期は役員改選年度の大会終了の翌日より次期改選年度の大会終了時までの概ね２年とする。ただし、理事は会長在任期間を含む場合は引き続き３期、それ以外の場合は引き続き２期を越えてその任に留まることはできない。また、監査は引き続き２期を超えてその任に留まることはできない。
附則
この改正会則は2000年10月2日から発効する。
５．資格問題、実践会員制度
資格問題については、多くの困難な問題が伴い会員の合意も難しいことから、現時点では導入しないことで承認された。実践会員制度の導入については合意し、その細部については新役員のもとで検討を進めることが承認された。
７．その他

☆　最後に大坊郁夫現会長による挨拶と自己点検報告、および堀毛一也新会長による挨拶がなされた。

★★　（新）常任理事会・（新）常任編集委員会議事録　★★

時間：2000年12月３日　13:00-17:00　　場所：フォーレスト本郷
出席者：堀毛一也・渥美公秀・大渕憲一・廣岡秀一・松井豊・村田光二
欠席者：山口勧（海外出張）

常　任　理　事　会

【審議事項】
総務
１．学会運営方針について
堀毛会長より、従来の路線を踏襲しつつ、次の事柄を積極的に推進するとの所信表明があった。
①実践会員制度の導入
②アジア社会心理学会については、Blackwellとの2002年の契約更改に向けて、１年間で集中的に議論を行う。
③広報の電子化を推進する
④地区活動の必要性を含めて検討する
常任理事会の開催頻度を高め、これらの問題を検討しながら、財政再建に前向きに取り組む。

２．学会運営体制について
各常任理事が以下の役割分担で活動していくことを確認した。
総務：堀毛一也
事務局：渥美公秀
編集：大渕憲一
広報：廣岡秀一
将来計画：松井豊
国内渉外：村田光二
国際渉外：山口勧

編集
１．編集活動の方針
投稿論文の審査について、透明性を確保し、かつ、より円滑に進めるために、現在の編集体制を拡充する案が提案され、了承された。内容は、常任編集委員会の項に記載。

広報
１．広報活動の方針
学会ホームページの運営を大阪大学三浦先生に委託することについて内諾を得たとの報告を受け、委託経費として予算を執行することになった。ニュースレターの電子化については、資料をもとに経費を含めてその現実性が審議されたが、当面、試用版を発行することとし、継続審議とした。

地区活動
１．地区活動の必要性と将来性
地区活動の現状が地区ごとにばらばらであるが、地区の自主性に任せ、当分の間、地区活動の予算は計上していくとの提案がなされ、了承した。

将来計画
１．将来計画の方針
４項目について提案があった。
⑴学会大会の活発化
春期に大会を開催することが提案され、2002年の５０回大会をめどにさらに具体的に検討することとした。また、大会において、大会において、理事会主導のワークシ

ョップ開催および実践家との交流が提案され、2002年の50回大会か2003年の51回大会をめどに導入を検討することとなり、大会主催校と打ち合わせを行うことになった。ワークショップの具体案は、村田常任理事の補佐を受け、松井常任理事が原案を作成することになった。また、実践家との交流に関しては、渥美常任理事が検討する事になった。

⑵学会誌（実験社会心理学研究）に関して

編集委員会の独立と予算化が提案された。常任編集委員会の議（後述）をふまえて、編集担当理事および編集委員長が原案を作成することになった。

⑶各種情報の電子化

ニューズレターの電子化や学会ホームページの拡大が提案された。会員にクローズしたページを設定することについては、利用者の数がどれほど見込めるかを含め、継続審議となった。

⑷財政問題の解決のために

AJSPの独立、事務委託先の変更、会費の値下げ、学会双書の刊行、および、賛助会員に対する講習会の開催について提案がなされたが、いずれの案件についても、関連機関に対し、現状や展望に関する情報収集を徹底した上で、検討することになった。講習会については、営利への姿勢や、実現可能性について、松井常任理事が中心となって検討することとなった。

２．実践会員制度の導入

導入に向けて、アクションプランを立てて試行することまで議論になったが、正会員との区別など議論しておくべき事柄も多く、継続審議となった。

渉外

１．Blackwellとの契約更新

２．アジア社会心理学会との連携

両議案については、Blackwellの担当者変更などもあったことから、Blackwellおよびアジア社会心理学会に対し、次回の常任理事会までに、これまでの経緯、現状、展望に関する情報を詳細にわたって提示してもらうこととし、引き続き検討していくことになった。

３．次期AASP大会（2001年7月　オーストラリア）のアナウンスと企画案

大会の情報が既に学会ホームページに掲載されていることが確認され、学会として企画を提案することが了承された。

会計・事務

１．会員の入退会

入会希望者３名、退会希望者１名について審議し、承認した。

２．会員の慶弔規定

現理事および名誉会員を対象とした原案に若干の修正を施し、常任理事会内規として採択した。

３. 実験社会心理学研究の"販売"について

学会センター関西から少数部の頒布について了承を得たことを受け、今後も必要な場面では、少数部の販売を行ってよいことを確認した。

４. 名誉会員の推戴準備

２名の候補者について準備していることが報告され、了承された。

【報告事項】

広報

１．広報活動報告

ぐるだいニュース第１９号を１２月中旬に発行することをはじめ、年間３，４号体制で進めることが報告された。

会計・事務

１．予算執行状況、会費納入等について

引継以降、収支に大きな変化がないこと、AJSP支払いを進めていることが報告された。

２．科研費補助申請

実験社会心理学研究：１０５万円、および、AJSP：１０７万円を申請したことが報告され、申請書類が回覧された。

３．賛助会員依頼関係

賛助会員候補先リストが提出され、常任理事、および、理事の中から、入会のお願いに伺いうる人が訪問していくことが求められた。

４．心理学連合からの依頼への回答

統一資格問題に関する説明があり、学会としては、主導権はあくまで各学会にあること、および、資格の内容においてグループ・ダイナミックスの観点からの認定項目を導入することについて、要望していくこととし、会長から回答することを了承した。

５．科研審査員の選任

学会から２名の審査員候補を届け出たことが報告された。指名は、会長によることを了承した。

６．日本学術会議研究連絡委員の選任

会長が行動科学研連の委員になったことが報告された。

７．学術会議懇談会報告

科学研究費の審査分野が改訂される見通しについて報告があった。

その他

１．古書類の処分

古書類の処分が必要である現状と、処分に関する規定がないことが報告され、原案を作成し、総会に諮った上で、対処していくことを確認した。

常　任　編　集　委　員　会

【審議事項】

１．投稿・審査状況

40巻２号は、予定通り発行すること、最近７編の論文が投稿されたことが報告された。問題点として、審査期間には半年から数年にわたってかなりのばらつきがある、原著が少ない、最終審査結果が報告された時に主査から編集委員会へのコメントが十分に考慮されていないことなどが指摘され、改善について審議された。その結果、次の審査手順を採用することに決定した。

①最終審査結果の報告（当然、rejectの場合を含む）この際、編集委員長は、主査から、編集委員会へのコメントとして、審査経緯を説明した文書をメールで受け取る。
②編集委員長と編集担当常任理事が審査プロセスを通覧する
③主査からの編集委員会へのコメント、および、副査の審査結果への配慮などに問題がない場合、掲載・rejectを承認
④上記②において、何らかの疑義が生じたときは、編集委員長が常任理事に諮り、検討した上で、掲載・rejectないし必要な措置をとる。

２．特集テーマ

４１巻１号に向けて、特集号を組むことは計画していないが、テーマの募集を継続することにした。

３．４１巻１号の書評

自薦他薦を受け付けるが、編集委員長の責任で、書評対象となる書物の採否を決めることとした。

４．編集プロセスの変更

最初の審査で著者に修正が求められた場合には、改稿期限を従来の６ヶ月から２ヶ月に短縮することとし、著者が無理であると判断する場合には、その旨編集委員会に文書で連絡するものとした。

５．その他

英文アブストラクトのチェック：アジア社会心理学会の会員を含めて、推薦者を募ることとして、継続審議とした。

★★　実験社会心理学研究　第４０巻２号掲載予定論文　★★

＜一般論文＞

【原著論文】
大野　俊和　「いじめ」の被害者に対する外見的ステレオタイプ

【資料論文】
河野　和明　自己隠蔽尺度・刺激希求尺度・自覚的身体症状の関係
川西　千弘　顔の知的さが総合的印象に及ぼす効果

【展望論文】
矢守　克也　社会的表象理論と社会構造主義　－W.Wagnerの見解をめぐって－

★★　学会・研究会等の情報掲示板　★★

◆名古屋地区社会心理学研究会◆

2000年度の名古屋社会心理学研究会の活動を報告させていただきます。
第１回　名古屋社会心理学研究会
日　時　2000年４月22日(土)　午後３時から午後５時
発表者　伊藤君男氏(愛知学院大学大学院文学研究科心理学専攻)
テーマ　説得事態におけるメッセージの処理に関する研究
－ヒューリスティック処理とシステマティック処理の相互作用について－
第２回　名古屋社会心理学研究会
日　時　2000年６月24日(土)　午後３時から午後５時
発表者　太田仁氏(関西大学社会学研究科)
テーマ　学校教育における社会的スキルの研究
－教師評定の妥当性の検討－
第３回　名古屋社会心理学研究会
日　時　2000年10月21日(土)　午後３時から午後５時
発表者　吉原智恵子先生(日本福祉大学情報社会科学部)
テーマ　集団意思決定場面における認知的葛藤と成員相互の比較影響過程
第４回は、2000年12月９日(土)　午後３時から午後５時
発表者　唐沢かおり先生(名古屋大学情報文化学部)
テーマ　社会的同一視、責任帰属と援助・協力意図

この、名古屋社会心理学研究会(通称ＮＳＰ)に関する情報は、名古屋大学の吉田研究室のホームページ
http://www.psy.educa.nagoya-u.ac.jp/yoshida/ysdj.asp
の「ＮＳＰ」で見ることができます。
また、ＮＳＰの登録会員へは、研究会等の案内もメールで配信することができます。担当の北折充隆氏(名古屋大学大学院)　kitaori96@psy.educa.nagoya-u.ac.jpまで、ご連絡ください。
当学会の中部地区には新潟、富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、山梨の各県が入っております。是非、幅広い研究会等の情報をお待ちしております。
（文責：斎藤和志）

◆ＳＳＴ普及協会からのお知らせ◆

ＳＳＴ普及協会は社会生活技能訓練(Social Skill Training; SST)の普及を通して精神障害

を持つ人々のエンパワメントと社会参加の推進を目的に1995年に発足し、西園昌久会長を中心に31人の運営委員と50人の世話人、および46名の認定講師が全国的に活動を展開しています。下記の企画に幅広い職種の方々のご参加を呼びかけます。

ＳＳＴ経験交流ワークショップ in 岡山

平成１３年１月２６日(金)～２７日(土)に岡山市のアークホテルとまきび会館を会場として開催されます。経験に応じて、初級者コース、経験交流コース、認定講師コースがあり、今回初めての試みとして医師コースも設けられます。講演やデモンストレーション、実技演習などによりＳＳＴの経験を交流し相互研鑽を図ります。参加申込みはFax.086-225-8826、問合せ先はFax.086-262-4448（岡山・慈圭病院内　ワークショップ実行委員会）。

ＳＳＴニューズレター１２巻３号やホームページ
http://www3.justnet.ne.jp/~jasst/
のご案内をご参照いただけると有難いです。　　（事務局長　安西信雄）

★★　アジア社会心理学会第４回大会のお知らせ　★★

アジア社会心理学会第４回大会（Asian Association of Social Psychology 4th Annual Conference 2001）が、"Asian Social Psychology in the 21st Century"と題され、オーストラリアのメルボルン大学で開催されます。開催日は、２００１年７月１０日～１３日です。

個人発表、シンポジウム発表が可能です。またメディアは、口頭発表とポスター発表が用意されています。発表希望の方は、３００語以下のabstractとともに、２００１年１月３１日（当初は１５日）までに下記までお申し込みください。

Michael Sullivan
ConferenceManagement
The Universityof Melbourne
Victoria3010
Telephone: +61383446107
Email: sullivan@unimelb.edu.au
http://www.studentadmin.unimelb.edu.au/psych/

なお、registration formは、上のWebsiteにもありますが、グルダイホームページにもPDFファイル形式で公開されています。URLは
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jgda/4th_aasp.pdf
です。また、本ニュースの19ページには、Conference Imformationが掲載されています。

★★　事務局からのお願い　★★

◆実験社会心理学研究の特集テーマ募集

事務局では、実験社会心理学研究の特集号テーマを随時募集致しております。詳細は事務局までお問い合わせください。

◆実験社会心理学研究の書評候補募集

事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

★★　広報担当からのお知らせ　★★

◆広報担当は、新刊本に関する情報を広く募集しています。グルダイ会員に紹介したい書籍がありましたら、広報担当までご推薦ください。また、公募情報などもお待ちしております。
◆常任理事会の議事録にありますように、現在、ニュースレターなどの広報メディアの電子化（ネット化）を検討しています。パスワード発行によるアクセス制限のもとでのWebページ化、もしくはメールマガジン形式での配信などです。どれも技術的な問題だけでは片づけられない問題がありますが、会員皆様方のご意見をお聞かせいただけると助かります。また現時点では、ネットマガジン化を試験的に運用しようとも考えています。協力してくださる**モニター会員**を募集いたします。PDFファイルをメールに添付する形式でのNL配布に協力していただける方は、**shuhiro@edu.mie-u.ac.jp**　までお知らせください。よろしくお願いいたします。
◆新役員による学会運営が始まりました。これに伴い、**学会関係の連絡先が変更**されています。ご注意ください。

◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見◆
岩手大学人文社会科学部堀毛研究室
〒020-8550　岩手県盛岡市上田３－１８－３４　岩手大学人文社会科学部
電話・Fax：019-621-6842　E-mail：kekehori@iwate-u.ac.jp　QGB03376@niftyserve.or.jp
◆学会事務局◆
大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室
〒565-0871　吹田市山田丘１－２　　大阪大学人間科学部
電話＆Fax:06-6879-8066　　E-mail：CXC02237@nifty.ne.jp
◆ニュースレターの編集・記事の投稿◆
三重大学教育学部廣岡研究室
〒514-8507　三重県津市上浜町１５１５　三重大学教育学部
電話・Fax：059-231-9329　E-mail：shuhiro@edu.mie-u.ac.jp　　hirooka@ztv.ne.jp

---

（編集後記）お正月を間近に控え、みなさま如何お過ごしでしょうか。師走のあわただしさ、ニュースレターに目を通す時間的・精神的余裕がないかもしれませんね。お正月の読み物の一つにお加えいただければ幸いです。
今回ニュースレター担当という役割を仰せつかりました。この種の仕事に能力があるとはとうてい思えないのですが、ニューズレターの電子化の検討を含めて、無い知恵を振り絞りたいと思っています。おそらく本号の編集にもチョンボがあるはずですが、なにとぞお許しください。またこれから２年間、多くの先生方にお世話になることが予想されます。その際は、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
総会が終わって２ヶ月が経ちました。総会の議事内容をお伝えすべきこのＮＬも、本来であれば１１月中に発行すべきでした。発行が遅れましたこと、ここにお詫び申し上げます（廣）。

Asian Association of Social Psychology (AASP)

Conference Information

Date: 10-13 July 2001
Location: TheUniversityof Melbourne, Melbourne, Australia

Registration Fee for a JGDA member: AUD370
Registration Fee for a Student Member: AUD290

Conferencewebsite: http://www.studentadmin.unimelb.edu.au/psych/

Abstractsubmission deadline: 31January2001(originallyannounced as 15 January 2001,butextendedduetoanumberofrequests)

Please visit our conference website as all information about the conference is listed there including accommodation information. We will keep updating the site as new informationbecomesavailable.

Please also download the registration form and accommodation reservation form from the site.

SpecialFeatures

- There will be a number of internationally renowned keynote speakers as listedbelow:

  Keynote Speakers: ProfessorKlausFiedler,UniversityofHeidelberg,Germany
  ProfessorSik-hunNg,CityUniversityofHongKong,China
  ProfessorKen ’ichiOhbuchi, Tohoku University,Japan

- The AASP conference will be held in conjunction with the SASP (Society of Australasian Social Psychologists) conference. Its dates are 12-15 July, 2001. No additional registration fee is required if you are attending the SASP conference only on the12and13July.

- AlthoughaconferencefeefortheentireSASPconferencehas not been set yet, there will be a large discount for JGDA members, if you wish to attend the entire SASP conference (14and15Julyaswellas12and13July).Akeynotespeakerinvited for the SASPconference is Professor Cecilia Ridgeway, Stanford University,USA.

For inquiry about academic program of the AASP conference, please contact Yoshi Kashima, Department of Psychology, The University of Melbourne, Parkville, Vic 3010, Australia (Fax: +613-9347-6618; Email: y.kashima@psych.unimelb.edu.au)

For any other inquiry about the conference (registration, abstract submission, accommodation), please contact Mr Michael Sullivan (Fax: +613-8344-6122; Email: sullivan@unimelb.edu.au)

（広報担当者註："Currently, oneAustraliandollaris approximately60yen."）